愛知県
精神医療センター

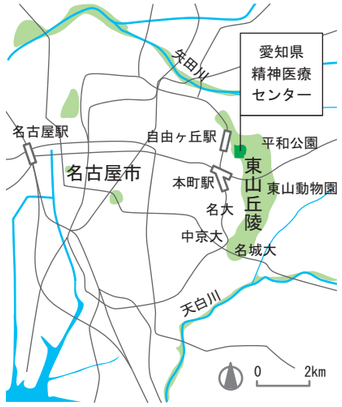
～自然環境を活かした
ランドスケープ～

■ 設計概要

愛知県精神医療センターは、昭和７年に設立されて以来、愛知県の精神医療の中核病院としての役割を果たしてきたが、施設の老朽化・狭隘化が問題となっていた。今回の整備において、県唯一の県立精神科病院として、良質で先進的な精神科医療を提供することのできる病院として生まれ変わることが求められた。築後 50 年を過ぎ老朽化・狭隘化が問題となっていた病棟は全面建替えし、新たに児童青年期病棟及び児童青年期デイケア、国の要請により医療観察法病棟を新設する計画である。

ランドスケープ設計には、それらの新病棟を取り巻く屋外空間を、既存樹林や地形等の豊かな自然環境や、周辺地域の景観との調和等を図りながら、これら環境特性を活かした社会との接点づくりを図ることで、患者のリカバリーをサポートする環境の創出が求められた。

本業務は、当医療センターのめざす精神医療環境を実現するため、基本・実施設計、現場監理を行ったものである。



計画地位置図

■周辺地域の環境特性

①自然環境

- 計画敷地は、南東に広がる東山丘陵の北西端に位置し、猫ヶ洞池が大正期に存在していたため池部等からなる谷筋に位置している。
- 敷地は緩やかな尾根状地形の高台に位置し、東山丘陵をはじめ南西方向に平地の広がりが望める開放的な地形特性となっている。
- 戦後になると、一体に良好な住宅地化が進むが、当敷地を含めた東山丘陵一体は、雑木林の名残が見られる貴重な自然環境となっている。

周辺地形（1920年頃）

周辺地形（1937年頃）

※「今昔マップ on the web」より作成

②景　　観

- 丘陵の高台にある当敷地は、展望に優れ、かつ周辺地域からの視認性が高い特性を有している。
- 特に、敷地内に残る雑木林と大きく成長した樹木は、病院施設を地域環境に融合させるとともに、地域の自然景観資源として活かす必要がある。
- 開放性に優れた高台の景観特性は、内外が一体となった質の高い医療空間を確保するため最大限に活かす必要があると考えられる。

③社会・文化環境

- 周辺地域には、優良な住宅地が広がるとともに大学等教育関係施設が数多く立地する教育文化地区としての特性を有している。
- 一方、東山公園や平和公園からなる東山の森（面積約 410ｈａ）は、官民協働の森づくりやレクリエーションの場として、市民の自然文化が根付きつつある舞台となっている。

■ 現況の問題点と可能性

老朽化した病棟とともに歳月を重ねた樹林や生垣等が、敷地境界部では周辺住宅地域を遮断し、敷地内では、患者の居場所に閉塞感を与えていた。

一方で、豊かに育った樹木は病院にとって、環境財産であり、東山丘陵の連続的地形や自然のつながりは、伸びやかな医療環境を創出できるポテンシャルを持っていた。

△既存建築：老朽化した病棟

新しい病棟でも築後 30 年、古いものでは築後 50 年を過ぎていた。

○豊かな既存樹林：自然との触れ合いを精神医療に活用

改修以前から、畑や雑木林などでの自然とのふれあいが医療に取り入れられ根付いていた。（きのこ栽培等）

△大きく育った生垣・石積み：周辺住宅地域と隔絶された敷地境界部の景観状況

外周道路沿いを高い生垣と石積みで囲み閉ざし、周辺住宅地域との接点が持てない境界部となっていた。

△：問題点　○：ポテンシャル

△大きく育った樹林と病棟：閉ざされた療養空間

豊かに育った生垣と樹木の天蓋が院内の屋外空間に閉塞感を与えていた。

○大きく育った落葉樹林：伸びやかで明るい樹木群

院内の樹木の多くが、剪定等により樹形を崩してしまうことなく、伸びやかに良好に成長していた。

○周辺に開けた景観：周辺は閑静な住宅地と、眺望のきく自然豊かな丘陵地

周辺を閑静な住宅地と東山丘陵の豊かな自然に囲まれ、地形特性を活かした眺望も確保できる、精神医療にとって良好な周辺環境となっていた。

■主な改善のポイント

自然・地形特性を活かす　　屋外に居場所をつくる　　地域に開きつなげる

【地域・自然とともにある愛知県精神医療センターのランドスケープ】

東山丘陵の自然環境や、自由ヶ丘の良質な周辺地域社会と接点を築き、
関わり合いながら精神医療を行える先進的な医療環境の実現をめざした。

①地域の環境財産を最大限に活かしたランドスケープ形成

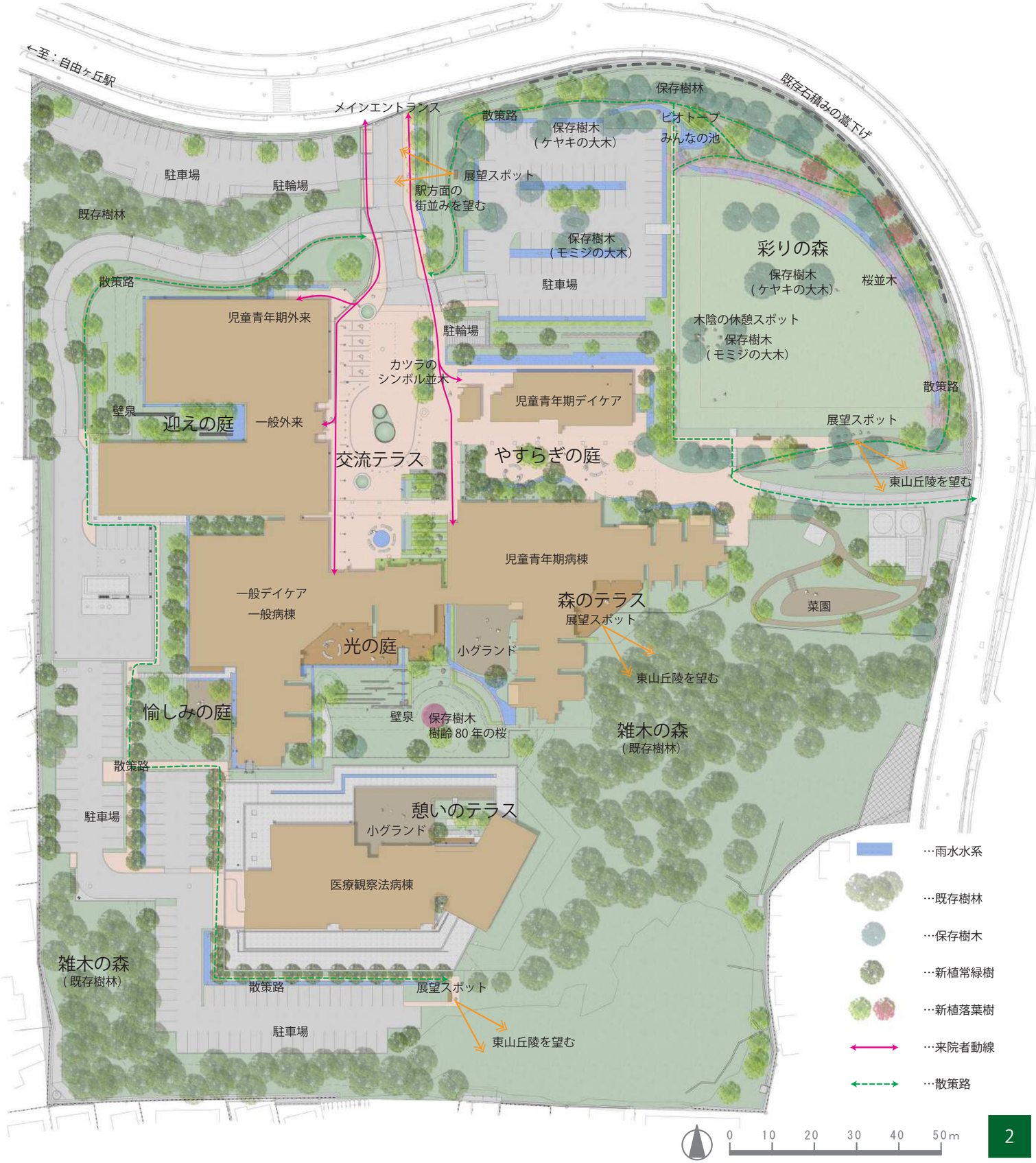
・東山丘陵の豊かな自然環境の一部として、敷地内の既存雑木林を保存・充実させ、東山の自然景観の連続的なランドスケープ形成を図った。
・敷地の広がりや丘陵の高台立地を活かし、遠景の景観や空へとつながる広がりを確保するなど、明るく開放的な空間イメージを形成した。

②患者の安心感を高め感性に働きかける環境形成

・患者の状況に合わせて居心地の良い場を確保できるよう、ひとり、家族、社会的空間といった多様なスケール感を大切にした細やかな植栽や地形造形による環境整備を行った。
・心地よい陽射しや柔らかな木陰、風や水の感触、木々の音や野鳥の声など、自然の様々な現象を活かした医療環境を創出するランドスケープデザインを行った。

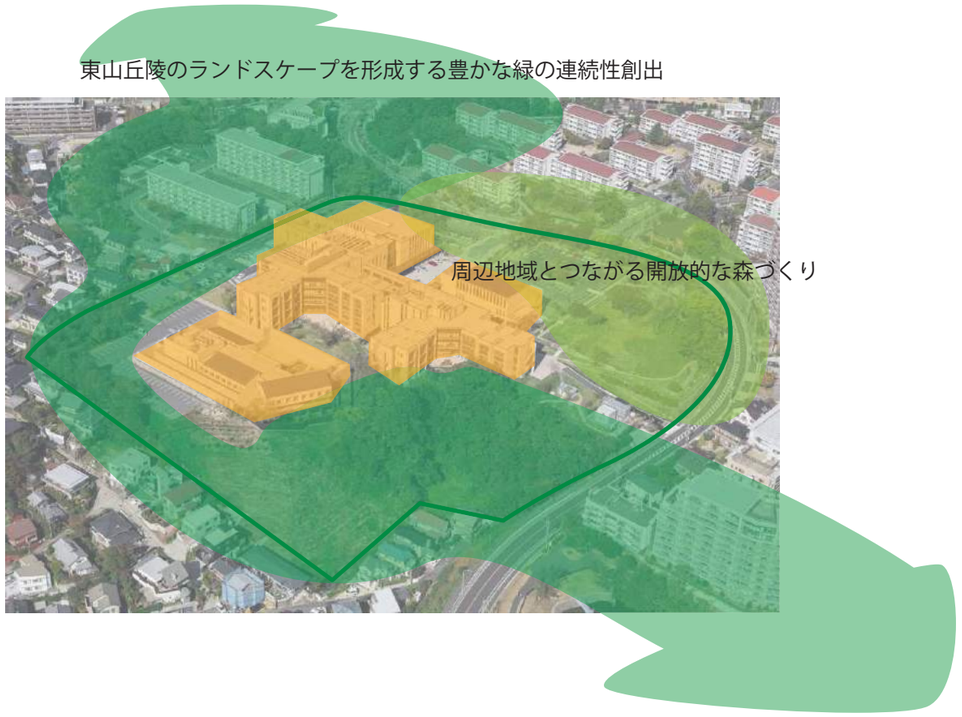
③周辺地域社会に開かれた交流スペースの形成

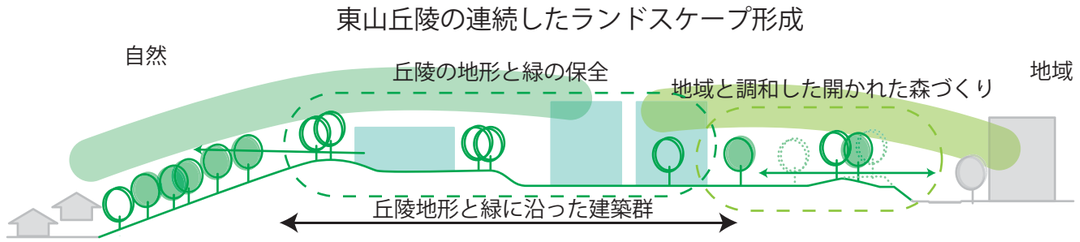
・社会復帰の段階に応じた地域の人々との交流やふれあいが可能となるよう、催しのできる交流テラスや、散策・レクリエーション等を楽しめる場を設けた。
・地域の人たちが気軽に利用できるよう、視線を遮る樹木や施設を整理し、見通しの良い環境づくりを行った。



■ 既存林の保存と充実による東山丘陵の連続したランドスケープ形成

・既存樹を可能な限り活かし地域の植生に配慮した補植を行うことで、東山丘陵のランドスケープとの一体化を図った。
・豊かに育った既存樹木を保存しつつ、周辺地域からの視認性を阻害している生垣の全撤去、及び石積みの一部撤去を行うことで、周辺地域とつながる開放的な緑環境を創出した。





南東から敷地を望む遠景
東山丘陵の高台地形上の精神医療センター

【植栽方針】

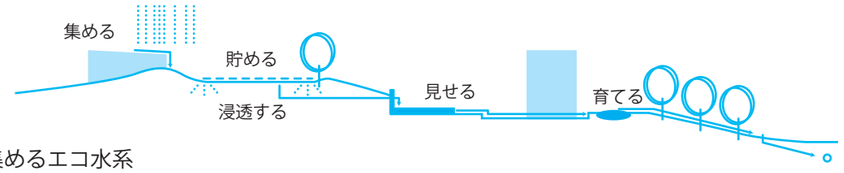
●東山丘陵の地域植生に調和した樹種の選定
・コナラ・アラカシ・ヤマザクラ他

●良好な既存樹木を最大限に活用
・ケヤキ、イロハモミジ、サクラ類他

●だれもが散策を楽しめる彩りの植栽
・カツラ・サルスベリ・ヒメシャラ他

●伸びやかな広がりや、心地よい囲われ感に配慮した植栽密度・配置計画
・芝生の広がりを基調に中低木地被類で細やかに演出

■ 敷地内に降った「雨水」、丘陵の「地形」、保存「樹林」による自然・地域とともにある環境づくり



←：集めるエコ水系
建築の屋根排水や駐車場等に降った雨水を、地形に沿いながら可能な限り集水し水景として活用する。

←：浸透するエコ水系
エコ側溝等により雨水を浸透させ、樹木の生育や流出抑制につなげる。

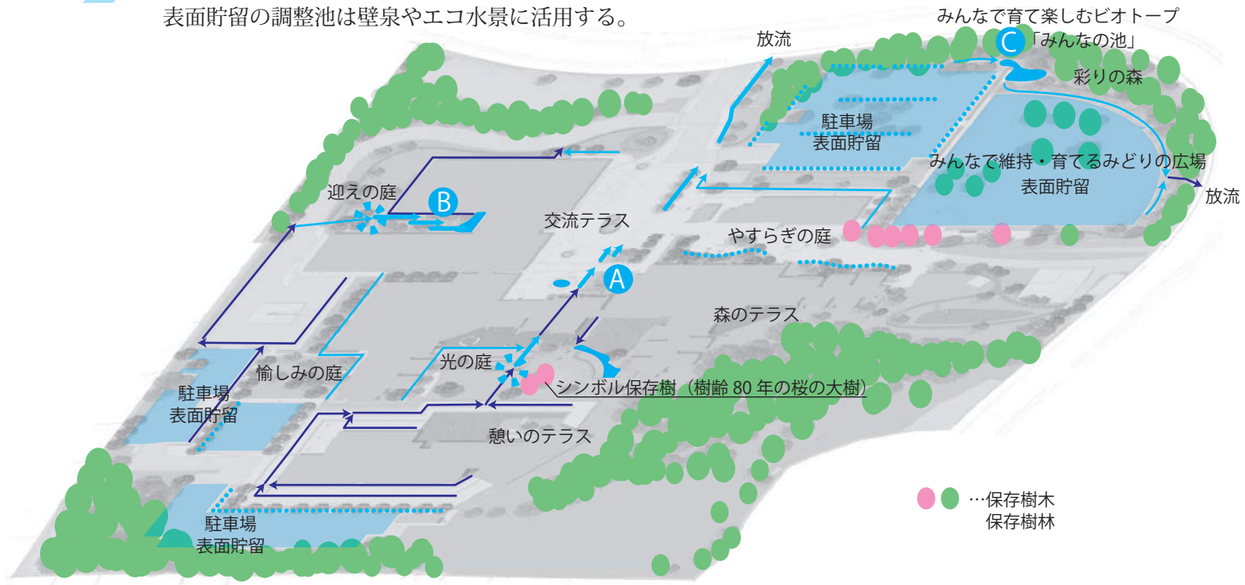
←：見せるエコ水景（せせらぎ）
エコを顕在化したせせらぎで来訪者を迎える。

●：見せるエコ水景（水面）
一定以上の降雨時のみ現れる水面など、自然の移り変わりで表情が変わる水景。

：壁泉
貯留した雨水を壁泉から少しずつ流すことで得られる水の音や流れる水で癒しの環境を創出する。

：育てるビオトープ水景
雨水を活用したビオトープ池で生物を育て、精神科医療や地域との交流に活用する。

：貯めて活用する調整池
表面貯留の調整池は壁泉やエコ水景に活用する。



A 来訪者を誘う浸透型のせせらぎ

交流テラス

B 雨水を貯留し活用した壁泉

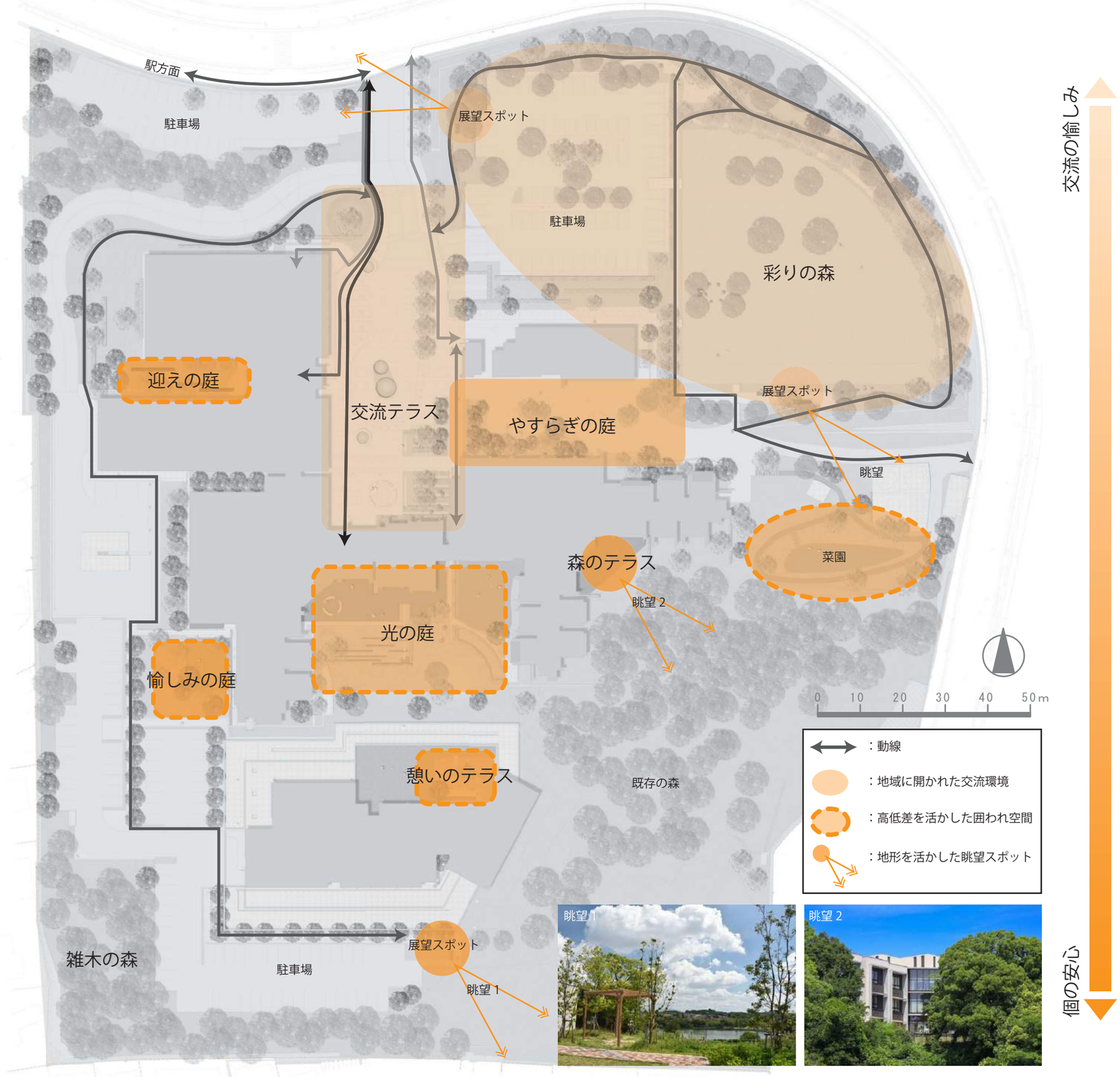
迎えの庭

C みんなで育て楽しむビオトープ

彩りの森

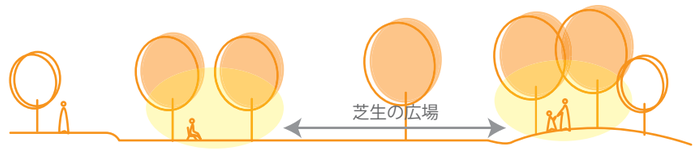
■ 丘陵地形を活かしたランドスケープデザインで、地域に開かれた交流環境や心地よく囲われた安心環境を創出する

・丘陵地形のレベル差や既存林を活かしつつ、植栽や施設配置を細やかに行い、見通しや広がり、視線、動線等をコントロールすることで、多様な環境を創出した。



交流テラス

メインエントランスの交流広場として広く空間を確保しつつ、児童青年期の外来、デイケア、病棟の動線を一般外来と分離し、センシティブな年齢層の患者に配慮する。

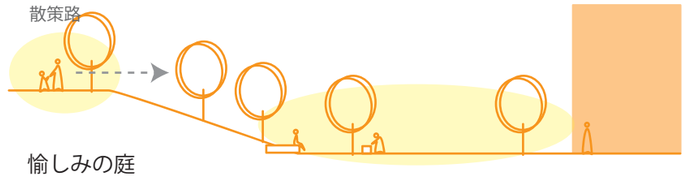


彩りの森

のびやかな拡がりにより、それぞれの心地よい領域を確保でき、地域の人たちも自由にお散歩やレクリエーションを楽しめる。

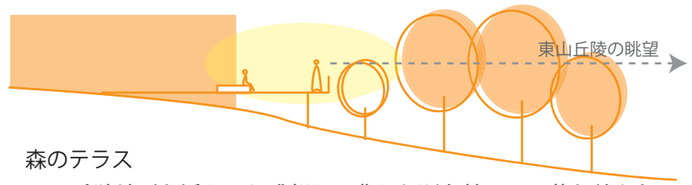
やすらぎの庭

患者が心地よい環境を確保できるよう、適度なマウンドと細やかな植栽により、やわらかく分けられた領域をつくる。



愉しみの庭

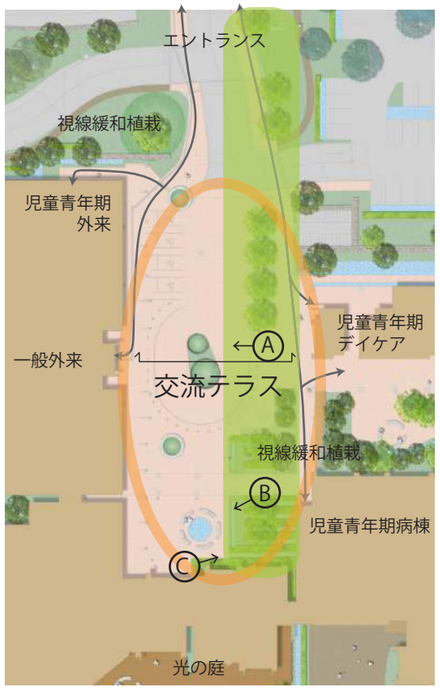
大きな地形のレベル差を活かし、散策を楽しむ人と庭で楽しむ人の対面を避け、両者の安心感を確保する。

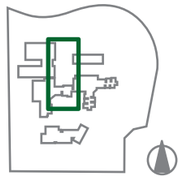


森のテラス

丘陵地形を活かした眺望と、豊かな既存林による落ち着きある療養空間を確保する。

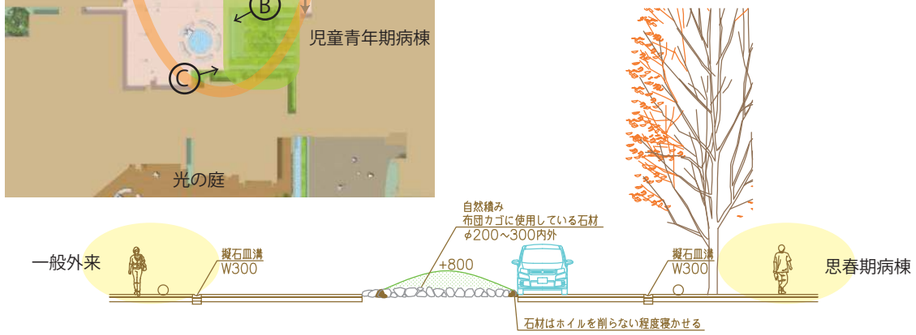
エントランスから光の庭へとつながる病院のシンボル空間
カツラ並木の連続によりシンボル性を高め、雨水を活用した自然型の水景と低木地被類植栽の連続により屋内外の交流スペースの一体感を高め、多様な活動を促す。





一般外来と児童青年期外来の出入り口、児童青年期デイケア等、思春期のセンシティブな患者の動線を、カツラ並木やエコ水景によりやわらかく分離する。

一般外来以外の出入り口は植栽やふとんかご等の施設を設け、周囲からの視線に配慮した。



交流テラス断面イメージ

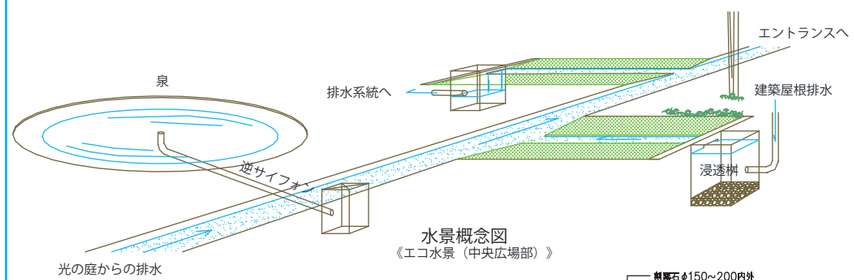
←Ⓐ 地域とつながる交流テラス　車両の進入を制限することで、院内外の交流イベント等に対応できるようハードな舗装の広がりを確保した。

←Ⓑ 彩りや木漏れ日、雨水活用の水景から自然を感じながら憩えるサークルベンチ

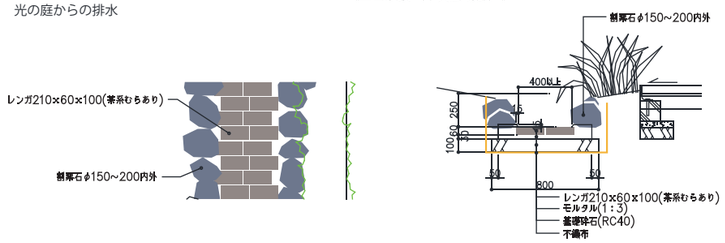
■自然を活かしたエコ水景

敷地内に降った雨を「泉」や「せせらぎ」、「壁泉」などエコ水景として活用し、降雨後しばらくの間だけ現れる水景から、風景の移ろいや自然を感じ、癒しを受けられる療養環境を創出する。

エコ水景は水景としての演出に加え、浸透を促すことで、植物の成長を助け、微気象緩和や雨水の流出抑制にもつなげる。



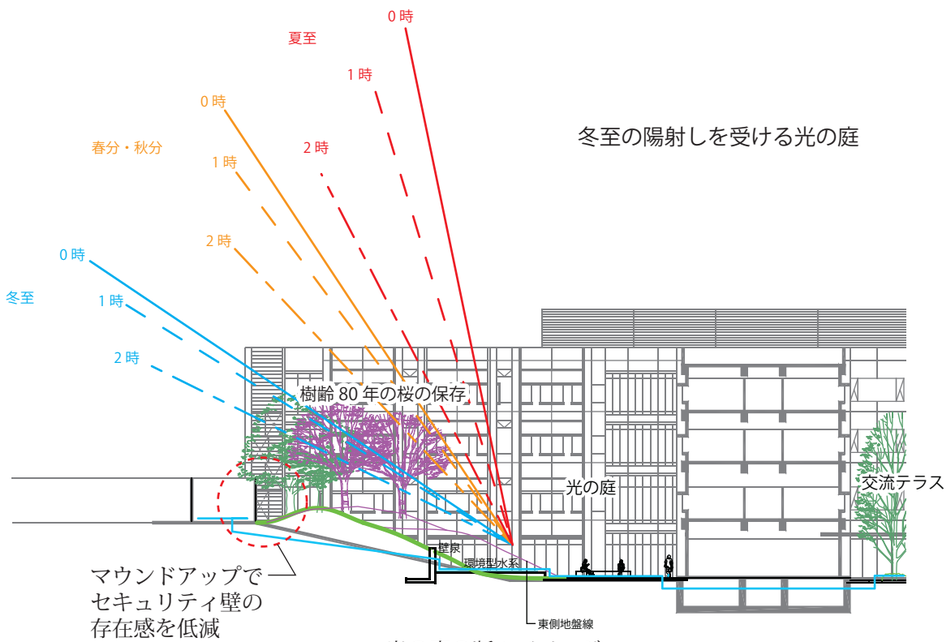
水景概念図
《エコ水景（中央広場部）》



平面図　断面図

←Ⓒ シンボリックなカツラ並木と圧迫感を与えない低木地被類植栽により、やわらかく病棟入り口への視線を緩和した。

エントランス・交流テラスからつながる水と緑が輝く空間
地形を活かした伸びやかな傾斜により１年を通して光の入る庭「光の庭」として
病院の中心を明るく演出し、病棟内のカフェ等とともに地域の人々との交流やふれあいを促す。



光の庭の断面イメージ

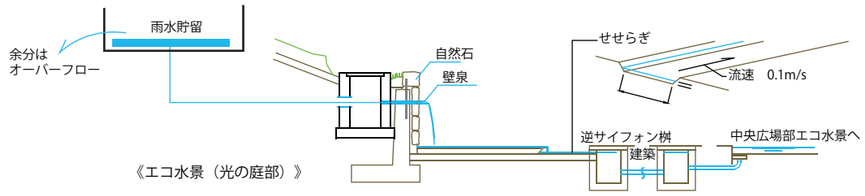
急な斜面や壁面等の立上りは庭に影を落とし、圧迫感を与えかねないため、ここでは樹齢 80 年の桜の木を保存するため現況の地盤を残しつつも、視線が自然と空へと向かうよう、穏やかな丘陵に馴染む地形造形を行い、大きく空を取り込むランドスケープデザインとしている。

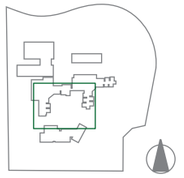
←Ⓑ 光の庭に大きく開いた病棟内の交流空間

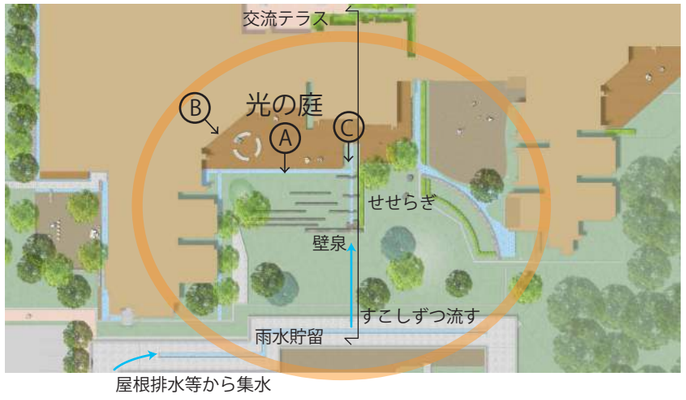
←Ⓐ 保存した樹齢 80 年の桜の木と、丘陵地形を活かし大きく空を取り込んだ「光の庭」

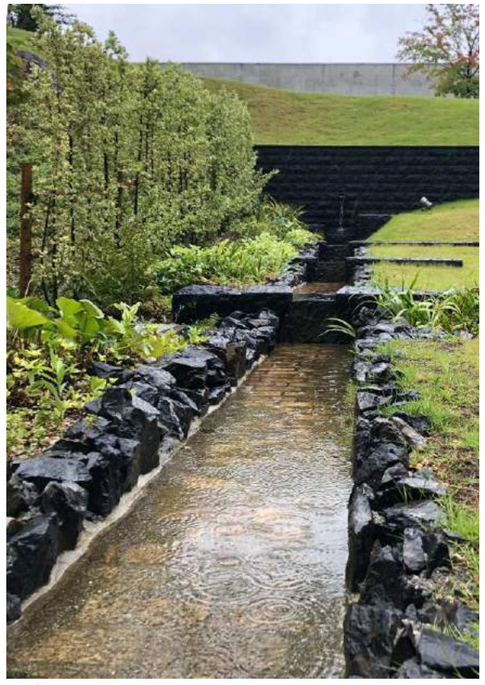
■丘上の雨水を活かした壁泉

丘上の建築等に降った雨を集水し、側溝や表面貯留により貯え、少しずつ流れるよう排水口を絞ることで、降雨後しばらくの間現れる壁泉やせせらぎの水景として演出した。







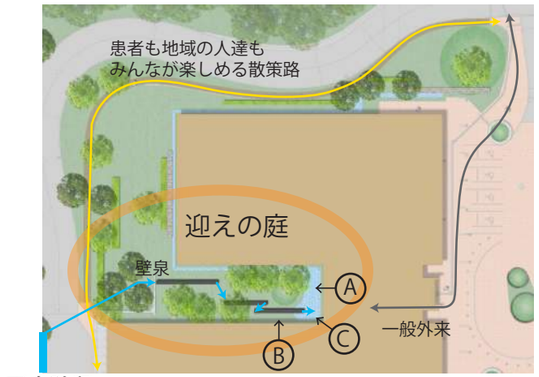


←Ⓒ 雨水を活用した壁泉

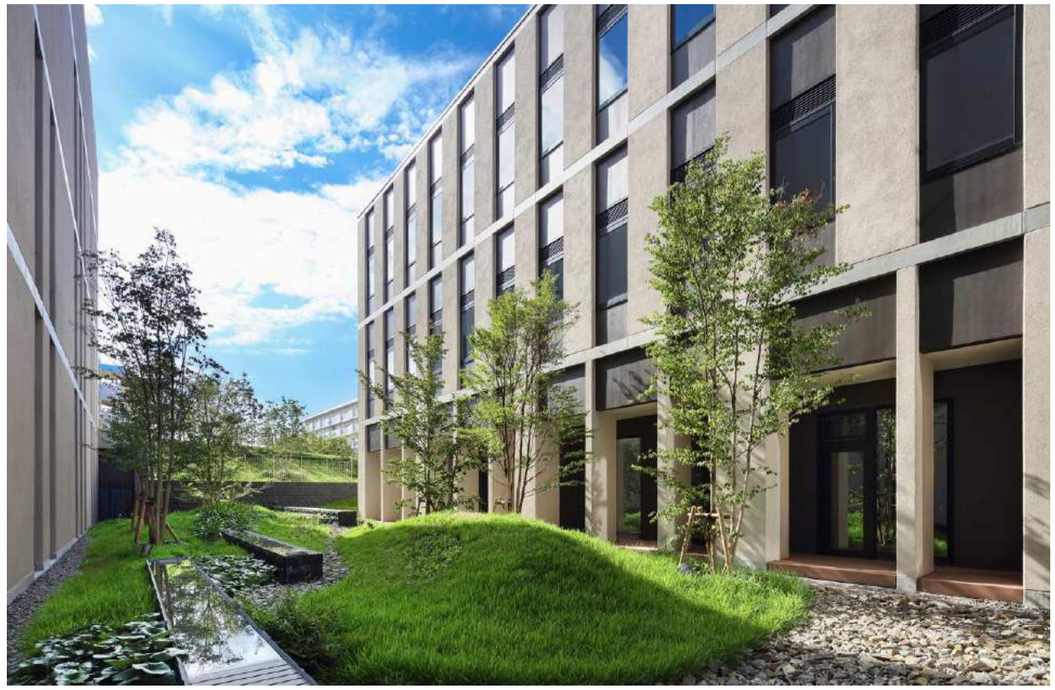
・迎えの庭

来院者に癒しと落ち着きを与える「迎えの庭」
光の庭とは別の雨水集水系統から、壁泉を通して静かな水面をつくりだす。
樹形が美しく清楚なヒメシャラを植栽し、落ち着いた演出で来院者を迎える。

←Ⓐ 地形の高低差と雨水を活用した水景。

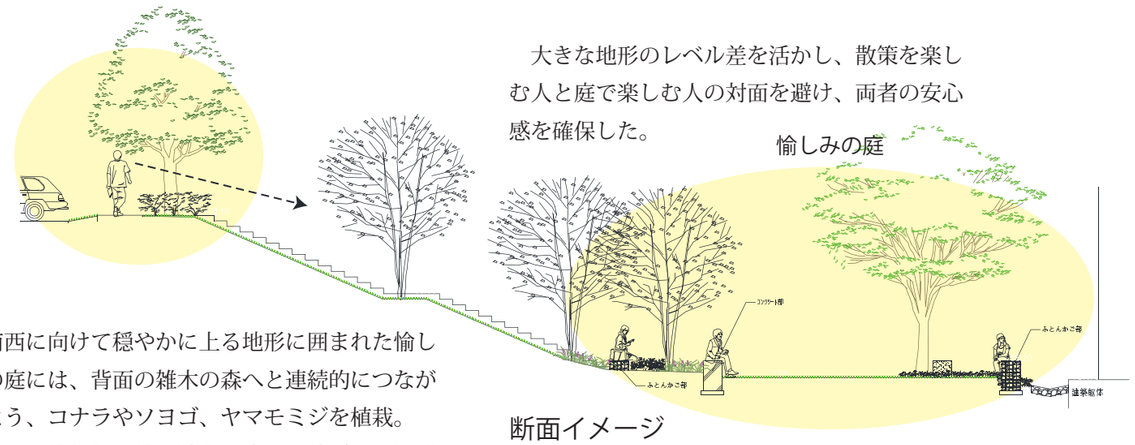


←Ⓑ 落ち着きのある静かな水面を演出。



←Ⓒ 穏やかなマウンドにより緑を立体的に演出し緑視率を高め、外部からやってくる患者のストレスを軽減し落ち着きを与える。

・愉しみの庭



大きな地形のレベル差を活かし、散策を楽しむ人と庭で楽しむ人の対面を避け、両者の安心感を確保した。

断面イメージ

南西に向けて穏やかに上る地形に囲まれた愉しみの庭には、背面の雑木の森へと連続的につながるよう、コナラやソヨゴ、ヤマモミジを植栽。
明るい陽射しに緑が映える庭で、伸びやかに活動を楽しめるよう土の広場とベンチを設けた。

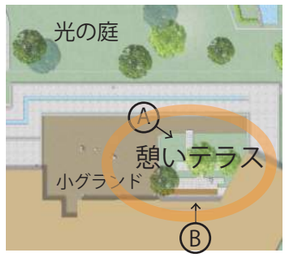
←Ⓐ 地形と植栽によるやわらかな囲まれ感のある庭

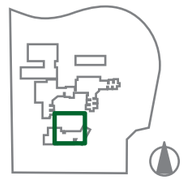
・医療観察法病棟の憩いのテラス

医療観察法病棟の憩いのテラスは、離院防止等のコンクリート壁に切り取られた空を大きく取り込めるよう斜面地形の庭とし、小グランドへ上がる階段途中に木陰とテラスの憩いスポットを設けた。

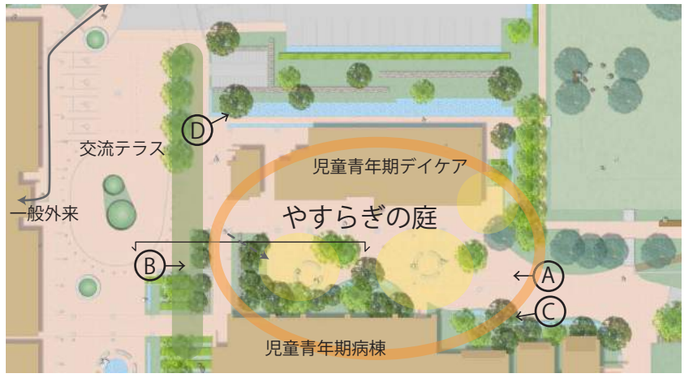
←Ⓑ 他者との距離感を保ちやすいステップ状の憩いテラス

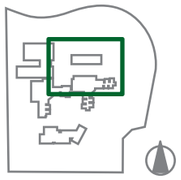
←Ⓐ 病棟の内外一体の活動に対応できるテラス

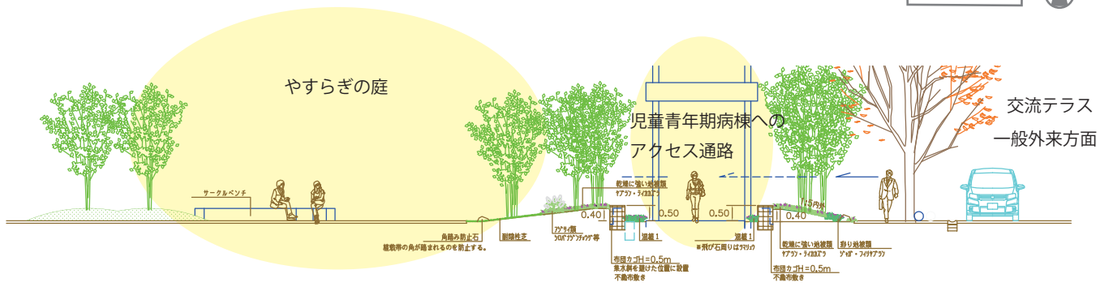




センシティブな児童青年期デイケアと児童青年期病棟に挟まれた「やすらぎの庭」
東西に抜ける空間を活かし明るく開放的にしつつも、マウンドや植栽により空間を包み安心感を確保した。







断面イメージ

交流テラスから彩の森へとみどりが連続的につながるランドスケープとしつつも、やわらかく動線・視線の交錯をかわし、お互いが適度な距離感を保てるよう植栽・施設配置を行った。

←Ⓐ 視線に配慮しつつ東西に抜ける開放的な環境とするため、軽やかな株立ちの雑木を中心に植栽した。

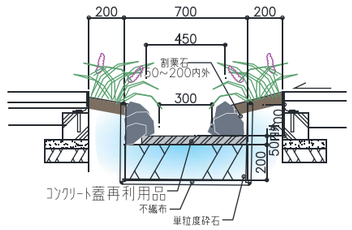
←Ⓑ 東西の抜けと視線緩和植栽

圧迫感がでないよう、見通しを確保しつつ、ふとんかごによる立上りと常緑の株立ち、マウンドと地被類植栽により、やすらぎの庭や児童青年期病棟への視線を緩和し、患者の安心感を高めた。

←Ⓒ エコ水路

庭に降った雨を浸透させながら集水するエコ水路を設け、雨水の流出抑制と植物の成長促進を図った。

底には撤去予定であったコンクリート側溝蓋を再利用し、廃棄物の削減と落ち葉等のメンテナンス性に配慮した。



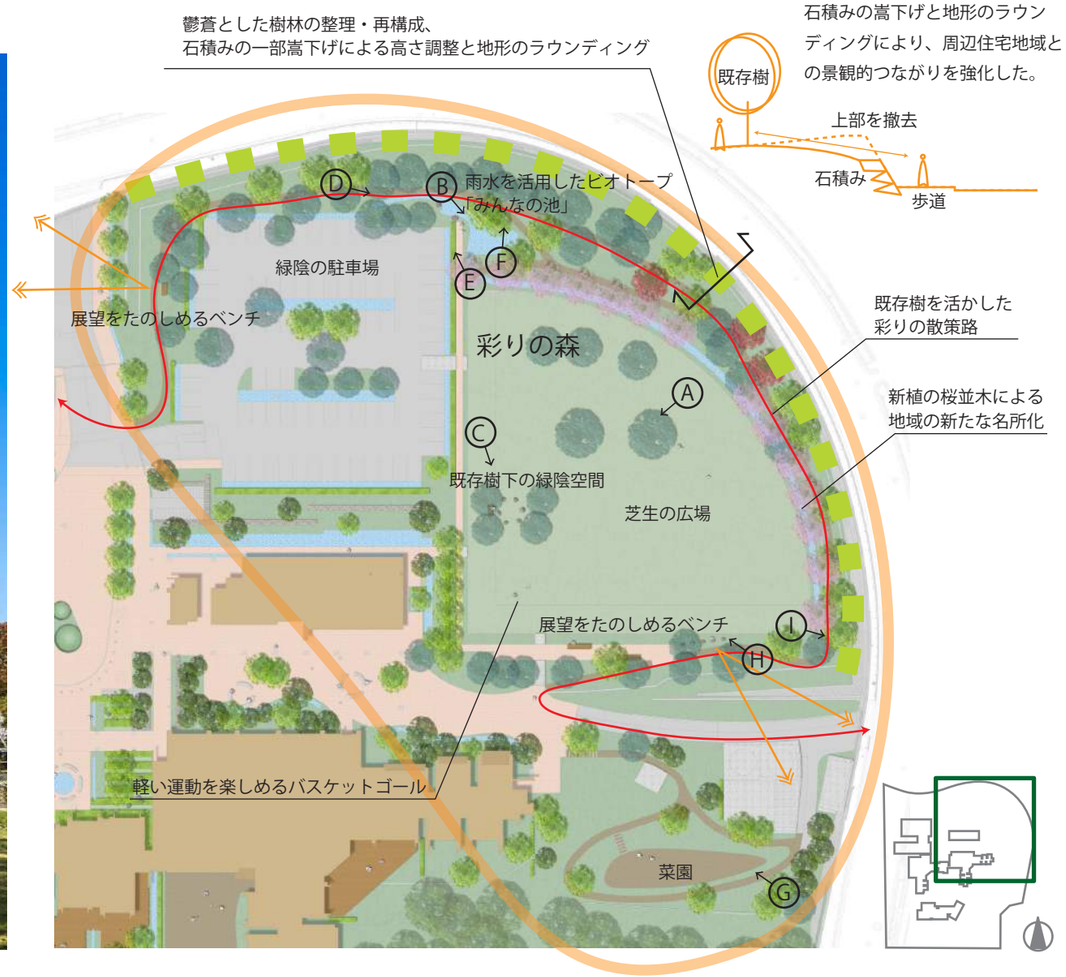
断面図

・微地形と既存林を活かした駐車場・駐輪場

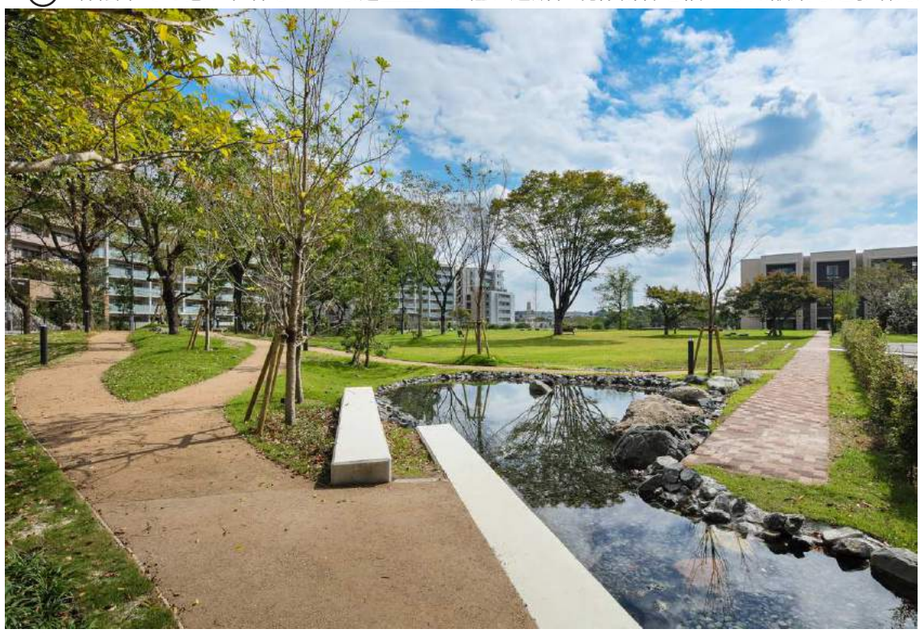
豊かに育った既存林を保存しつつ、穏やかな地形造形とふとんかごによる統一性をのあるデザインを行うことで、駐車場や駐輪場を連続したランドスケープに馴染ませた。

←Ⓓ 地形と一体となった駐輪場と駐車場

かつては生垣により閉ざしていた敷地境界部を、既存樹を活かしつつ周辺地域とつながる開放的な「彩りの森」として生まれ変わらせた。



←Ⓐ 緑陰下での憩い、伸びやかな芝生上での軽い運動、既存樹林を活かした散策など多様なアクティビティの受け皿となる広場



←Ⓑ既存の自然を活かし、閉鎖的な生垣を取り払うことで、地域に開きつながりを得た彩りの森のランドスケープ

←Ⓒ 保存した既存樹の木陰

←Ⓖ 地形に馴染ませ、散策路から適度な距離感を確保した菜園

←Ⓓ 雨水を集水する水路

←Ⓔ 雨水活用のみんなの池

←Ⓕ 地域の人たちの散策利用

←Ⓗ 旧病院の景石を再利用したスツール

←Ⓘ みんなで管理する意識を高める草とり用ゴミ箱

日常的に豊かな自然と触れ合うことで、みんなが自ら自然を管理し、育てていこうとする意識が芽生えつつある。